

あおもり民医連

2025年11月17日発行

第
320
号

【8面オールカラー】発行部数2,910部

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0803 青森市安方1丁目11-6-1F
TEL. 017 (723) 4076 FAX. 017 (773) 5326
URL <https://aomin.jp/> e-mail info@aomin.jp



講師の泉谷専務

満席のシンポジウム会場

地域医療を
守れ！

国民署名の取り組み

8月後半から9月にかけて、竹内一仁健生病院院長と事務局長で市内の病院6ヶ所を訪問しました。病院経営に関する意見交換を行い、さらに連携を深めていくことを確認できました。署名の協力依頼については、訪問先すべてにおいて賛同の意を示していただきました。引き続き、地域の医療機関訪問を実施したいと思います。

また、法人としては青森県議会に「医療機関の経営を守る」ことを訴え、その思いを受けた最大会派与党から意見書が提出され、全会一致で採択されました。同時に国會議員を交えたシンポジウムを開催し、約90人が参加しました。泉谷雅人専務理事が講師を務め、地域住民に理解と協力を求めました。

（健生病院 事務局長／兵藤尚子）

津軽保健
生協

青森保健
生協

青森保健生協では、専務理事を本部長に据えた「地域医療を守れ！闘争本部」を立ち上げ、国民署名を中心訴えを広げています。まずは職員が学習びかけるようすすめました。地域の医療機関へは、事務幹部の方々を窓口として趣旨を理解いただき、それぞれの職員へ署名を依頼しています。また、今年は国際協同組合年ということもあり、青森県生協連の会員生協を通じて、多くの地域住民へ訴えを広げています。目標の10,000筆を達成し、私たちの声を国に届けます。

（青森保健生協 専務理事／宮本達也）



職員による訴え

八戸医療
生協

晚秋穏やかな日となつた10月31日（金）コープあおもりのいけ店前で、あけぼの薬局職員1名を含む職員10名、理事・地域組合員6名の参加で、秋の看護介護ウェーブ八戸版と称した「地域医療を守れ！署名行動」に取り組みました。わずか30分程度で41筆の署名が集まりました。署名にご協力いただいた方から、「身近なクリニックが閉院し、さらに近くの薬局も閉院してしまった」と驚いていた、「医療機関や介護施設がなくなつては大変だ」などの声があり、参加者一同、よりいつそう署名を広げようと決意を新たにしました。

（八戸医療生協 専務理事／宮沢守）



第
17回

全日本民医連 学術・運動交流集会

10月10日(金)～11日(土)の2日間にかけて東京ビックサイトにて開催され、全国から978人の職員が集まりました。1日目はフォトジャーナリストの安田菜津紀氏による被災地・紛争地取材の講演、2日目は分科会で全国の事業所からのポスターセッションが行われました。



1日目は「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～」と題して安田さんに講演して頂きました。安田さんはカンボジアをはじめ国内外で難民・貧困・災害の現場を長年取材し、TV等でも発信を続けています。講演冒頭、「記録は過去を留めるだけでなく、誰かの命を“いま”につなぐ行為」と語り、写真や映像に宿る生きる力を紹介して頂きました。メディア組織に属さない立場で、どこへ向かい、何を伝えるのかを自ら決めて歩いてきた経緯にも触れました。

現場の声を“自分事”として受け止め直す機会

になりました。また、たった一人の声に寄り添うことが、地域の医療・福祉を支える出発点だと感じました。

2日目はポスターセッションです。

「看護小規模多機能型居宅介護事業所ひまわり推進に向けた取り組みについて」をポスター形式で発表しました。参加者は発表者の説明を聞き、質問や意見を交わしました。発表後も島根県から参加の方と名刺交換を行い、取り組みについて意見交換をすることが出来ました。これがポスターセッションの良い所だと感じました。

今回のポスターセッションでは、医療・介護・事務・地域支援など、職種の枠をこえた実践が数多く報告されました。それぞれの現場で「誰ひとり取り残さない地域づくり」を実現するために、工夫を重ねている様子が伝わってきました。

(看護小規模多機能型居宅介護事業所ひまわり 所長／野宮ふみ子)

2日目のポスターセッションではそれぞれテーマが割り振られ、私は「経営危機突破の取り組み」を選択し、自分がこれまで行ってきた費用削減の内容を紹介し、取引業者との関わり方や、契約の内容の見直し等の発表をしました。

全国の民医連職員のポスターはそれぞれ趣向を凝らしたものが多く、様々な職種の方が様々なテーマでポスターを作成していて、とても興味深い内容でした。中でも目に止まったのが、私と同じ「経営危機突破の取り組み」の内容のポスターで、全国の事業所の事務職員の奮闘を肌で感じることが出来ました。

今後は学連交で発表した内容をさらに突き詰めていくとともに、私たち民医連の職員一丸となって経営危機を乗り切るために尽力していきたいと思います。

(健生病院 庶務課／織田桂輔)



制度教育中期研修

「ケアの倫理を学び、話かす」

9月24日(水)・25日(木)・10月20日(月)浪岡中央公民館にて計133人の参加で実施しました。



昨年度に引き続き「ケアの倫理を学び、活かす」をテーマに、岡山県労働者学習協会事務局長の長久啓太氏に講演していただきました。昨年度以上にわかりやすく説明してくださり、講演

を理解できたかの評価に対しても97%以上が理解できました。まあまあ理解できたと回答があり、とても好評でした。また、振り返りフォームで「心に残ったキーワード3つ」を挙げてもらいました。誰

もがケアし、ケアされ、支えあって生きているという当たり前を忘れてはならないと改めて思いました。日々の業務の中でも、日々の仕事や民医連運動に「ケアの倫理」を実践的に活かしましょう。



活発な感想交流が行われました

教育部／長谷川聖

2025年度

薬剤師中期・管理者研修

10月18日(土)浪岡中央公民館にて開催され、38名が参加しました。生協さくら病院医師で緩和医療に精通している小枝淳一医師と、看取り患者を受け入れている特別養護老人ホーム勝田三思園の高橋進一看護師を講師にお招きしました。



前半は小枝先生による「認知症とACP※」と題した講義の後、①認知症患者②看護師③患者家族役の3人グループでロールプレイをし、それぞれの立場でどのように感じたのかを話し合いました。意思表示が難しい患者にも当然ながら意思は存在し、そこにどう寄り添うか、とても考えさせられる内容でした。

後半は高橋看護師指導の下、「どせばいい？ゲーム」(津軽弁のACPカードゲーム)を4人グループで行いました。かるたのように札が数十枚あり、それぞれに人生の最期にどうしたいかが書かれています。大切な人とのこのような話をするのはハードルが高いと感じる方も多いと思いますが、このカードゲームがいいきっかけになる

と感じました。

保険薬局でも終末期の在宅患者が増え、10年前に比べて関わる機会が本当に増えました。ACPは人生の末期だけでなくむしろ早い段階から行うべきで、人生のどのステージでも始めることができます。比較的健康な時期から地域住民と関わる保険薬局にこそ、大きな役割があると感じました。当薬局でも健康教室や出張講座などを通じて、ACPの普及に努めていきたいと感じました。

(大野あけぼの薬局／台丸谷卓)

※ACP (Advance Care Planning)：人生の最終段階の医療・ケアについて、本人・家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス。本人の意思決定を基本に対話を重ね、状況に応じて見直すことを目的とし、「人生会議」とも呼ばれる。

第46期
全日本民医連

人権としての社会保障セミナー

第2クール

9月11日(木)～12日(金)福島県にて開催されました。フィールドワークや講義・討議を通して、人権としての社会保障を学び深めるのが目的のセミナーです。

今回は、東京電力福島第一原子力発電所の事故で広がった放射性物質に関連した様々な問題を学んできました。私が一番印象に残ったことは、福島県浪江町津島地域の住民の方々のお話です。津島地域は高い放射線量のため帰還困難区域に指定された町であり、避難指示が解除されても住民たちが戻れない現実がありました。『帰らない』のではなく、不安なので「帰れない」のだそうです。元の状態には戻らないのだと住民の方も察していましたが、小さい子供を連れていつでも帰れる土地にしてほしいと願っていました。

復興とは何かと改めて考えさせられました。原発がある以上、津島住民の被つた被害はいつ誰の身に起きておかしくありません。自分に置き換えて考え続ける必要があるのだと強く思いました。

(藤代薬局／菅原実洋樹)



遠くに見えるのが福島第一原発

2025年度

県連薬局活動交流集会

9月27日（土）アートホテル青森にて開催され、青森県民医連の病院薬局・保険調剤薬局の薬剤師および事務職員が総勢47名（薬剤師43名、事務4名）参加しました。



今回は、薬剤師としての基本的な役割に立ち返り、医薬品の本質を見つめ直すことを目的として開催されました。導入では「青森県連の新薬・副作用モニターのこれまでの取り組み」を振り返り、全員性を改めて認識する機会となりました。

続く講演では、全日本民医連の医薬品評価委員長である中村建氏を講師に迎え、「医薬品の評価方法」についてご講演いただきました。医薬品の有効性・安全性を科学的に評価する視点の重要性や、製薬企業の情報に対して批判的に読み解く姿勢の必要性が強調されました。講演後のグループワークでは、副作用対応や薬剤評価に関する実践的な視点が共有され、有意義な学びの場となりました。



講師の中村建氏

今年度は7名の新入職薬剤師を迎え、懇親会での自己紹介を通じて人柄を知る機会が得られました。法人を越えた交流も生まれ、今後の連携強化にもつながることが期待されます。

本学習会は、薬剤師としての基本姿勢を見つめ直し、今後の業務にどう活かすかを考える貴重な場となりました。今後も学びと交流を実践につなげ、安心して医療を受けられる環境づくりに貢献していきます。 (青森民医連／端村由貴人)

(責森民医連／端村由貴人)

て熱い思いを共有しました。国の低医療費政策のもとで、経営難や人材不足に拍車がかかり、全国で病院や介護施設の倒産、ベッドの縮小・廃止が相次いでいます。人手不足や物価高騰、報酬抑制は深刻な経営課題となっています。日本医師会や日本病院協会など多くの医療団体が国に対し早急な支援を求める声が上がっています。国会要請を通じて制度の改善と支援の拡充を求めています。地域で暮らす誰もが安心して医療や介護を受けられる社会を守るために、声をあげ続けることの大切さを実感しました。

10月18日（土）参加者約60名にて行われました。当日は雨天のため、予定されていた地域へのアピール行動は中止となり、青森市アーウガ5階研修室での集会に変更されました。



～安全で安心できる医療・
介護・福祉の確立を～

秋の看護・ 介護ウエーブ 2025年

企画
プレ

全国ジャンボリー in 兵庫

11月27日（木）～29日（土）全国ジャンボリーが兵庫県神戸市のポートピアホテルで開催されます。これに先立ち、10月25日（土）浪岡中央公民館にてプレ企画を行い、全国ジャンボリー参加者8名とジャンボリー委員の計13名が参加しました。

ジャンボリーについて学んで嘘つき自己紹介でアイスブレイクの後、出発当日の説明を行いました。初対面の方が多いという事もありはじめは口数も少ないように感じましたが、徐々に笑顔も見られ打ち解ける事ができたようです。

本番まで1ヶ月を切り、6年振りの現地開催となる全国ジャンボリーに参加される青年職員が大いに学び、交流し、少しでも多くの収穫を得られるよう最後まで企画運営をしていければと思います。各法人・事業所の職員の皆さんにはカンパ活動へのご協力を頂き、本当にありがとうございました。



1月17日(土)にはアフタージャンボリーの開催を予定しております。全国ジャンボリーに参加しての感想交流や、今後働いていく中でどのように活かしていくのか振り返りの機会を設けますので、重ねてのお願いとなります。積極的な参加をお願い致します。

今後とも、変わらないご支援ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

(全国ジャンボリー in 兵庫 北海道・東北地協代表事務局
ショートステイ虹の郷／対馬周也)

第26回 薬害根絶デー

～無関心ではいられない、
薬害被害広げないために～

8月26日(火)日本プレスセンターにて開催されました。

開催前には、厚生労働省敷地内にある薬害再発防止「誓いの碑」の前で全国薬害被害者団体連絡協議会が福岡資磨厚生労働大臣に要望書を提出しました。

福岡大臣は、二度と薬害を繰り返してはならないと言及し、



薬害でお亡くなりになつた方に哀悼の意を示し、被害にあわれた方にお見舞い申し上げますと話されましたが、因果関係の追求・治療の研究については一言もありませんでした。福岡大臣が要望書

を受け取り退出する際、新型コロナワクチン後遺症の方が詰め寄り、「元の体に戻して下さい！」という姿は、被害者の方のただならぬ強い思いを感じさせられました。

薬害根絶デーの集会の中でも、被害者の辛い後遺症の状況、医師から気持ちの問題と認めてもらえたことや、診察すらしてもらえた体験談が話されました。最後に被害者の方が、普通の生活に戻りたいと訴え、「無関心は被害を広げます。一人でも多くの方に現状を知つてもらいたい」と呼びかけました。

この集会に参加し、私たち薬剤師は薬の専門家として、薬の情報に厳しい目を持ち、患者さんから副作用の情報収集をすること、薬害について知つてもらう活動をすることなど、今後も引き続き続けていく必要があると改めて強く感じました。

(大野あけぼの薬局 副薬局長／蝦名美江)



「731部隊」に少年兵として所属していた方からは、実験体にされた人を「マルタ」と呼び、非人道的な実験が繰り返されたこと、証拠隠滅のため実験予定者全員が殺害されたこと、箱口令により長く誰にも話せないまま悪夢に苦しみ続けたことなどが語られました。

満蒙開拓平和記念館では、国策として開拓民が送り込まれた歴史を学び、語り部の方から、敗戦後に満州から日本へ逃れるまでの苦痛の経験、今もPTSD（心的外傷後ストレス障害）に苦しんでいると

9月13日(土)～15日(月)におこなわれた「反核医師の会 学生部会」主催の長野フィールドワークに、青森民医連から医学生3名が参加しました。

医の倫理と戦争を考える3日間



医学学生からは「戦争になれば医療の倫理は崩壊してしまう。戦争になる前に止めなければならない」「加害者も被害者も生き出さないために何よりも大切」といった感想がござり、医療者として平和を守る責任について考える3日間となりました。

(青森民医連／相馬小百合)



平和と社会保障を立て直せ！

9.25 いのちまもる総行動

9月25日(木)日比谷野外音楽堂に、全国から2200人の医療・介護・福祉・保育従事者が集いました。青森民医連からは10名の参加でした。

冒頭、ゲスト「ザ・ニュースペーパー」の政治コントで盛り上がります。この日の東京の最高気温は28.5℃。会場の熱気も相まって、熱中症が心配になるくらいでした。



医療従事者の苦しい現状をアピール

主催は全国保険医団体連合会や日本医療労働組合連合会などでつくる実行委員会。主催あいさつした日本医労連の佐々木悦子執行委員長は、「医療費4兆円削減や医療・社会保障費の大幅削減による医療機関や介護事業所の相次ぐ倒産で、地域医療・介護・提供体制が脅かされている。コロナ禍で入院できずに自宅や介護施設に留め置かれ、必要な医療も受けられずに亡くなつた事例が多発し、国民の命が軽視されている。声を上げて行動し、平和を守り、国民の命と暮らしを守る政治へ転換させよう」と呼びかけました。

医療や介護現場の当事者らによるリレートークでも、医療・社会保障費の増額、労働者の待遇改善を求める声が相次ぎ、隣の厚生労働省に向けてシュプレヒコールを叫びました。

集会後、恒例の銀座周辺をパレードしました。久しぶりの銀座は外国人が多く、雰囲気が変わり、日本人の生活が貧しくなつたと感じました。

会場の野外音楽堂は老朽化のため休止し、建て替えとなります。新たな野外音楽堂でも再びいのちまもる総行動が行われることを願います。

(津軽保健生協 組織部／三上真史)

2025薬学生のつどい

in 北海道

9月13日(土)～14日(日) 北海道東北地協主催で北海道にて開催され、薬学生・職員含め30名が参加しました。



1日目は病院・薬局見学から始まり、薬剤師による原水禁世界大会への参加報告や、副作用モニターに関する学習講演が行われました。原爆投下から80年を迎えた今、被爆者の高齢化が進む現状に触れ、学生からは「機会があればぜひ参加したい」「被爆者の声を次世代にも伝えたい」と等、様々な感想があがりました。

2日目は、「パレスチナの現状とこれから」と題して、北海道パレスチナ医療奉仕団団長の猫塚義夫さんよりご講演いただきました。過酷な避難生活に加え、劣悪な衛生環境や食糧不足による飢餓の進行など、現在も続くパレスチナの厳しい状況について語られ、解決に向けて「生活の1%の関わり」を持ってほしいと呼びかけました。自身の命の危険も伴う現地において、治療や支援活動を行う理由として、「条件が違うだけで特別なことをしているわけではない。日本でもパレスチナでもやることは同じだ」と語られる姿が印象的でした。

県連事務局人事往来

11月より県連弘前事務所へ出向となりました。

これまでの職員や患者と相対する業務から大きく変わり、医学生への対応が主となります。

医学生の大半は10歳以上年齢が下になるので、自分がオジサンであることを自覚させられそうで少し腰が引ける思いです。とはいっても医師確保は病院経営だけでなく、地域医療の未来に直結する重要な任務です。責任やプレッシャーをひしひしと感じますが、事務所の皆さんとともにがんばっていきたいと思います。

着任 みやこし いづみ (津軽保健生協
宮腰 和実 ⇒弘前事務所) 11/1付



いつでも元気

2025年12月号 380円 好評発売中

学生と市民でまちづくり 稚内

【けんこう教室】睡眠時無呼吸症候群

ある日、病院がなくなる

明日に架ける橋 神奈川

まちの子から 神奈川県湯河原町

食と健康 簡単 クリスマススイーツ

発行=神奈川県保健医療研究所 〒253-0034 神奈川県横浜市港北区港北2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657



2日間の薬学生のつどいへの参加を通して、学生・職員ともに、平和や戦争について学び考える、とても良い機会となりました。 (健生病院 薬局／山田有紗)

いのちのとりで 裁判仙台控訴審

6月27日(金)の最高裁判では、大阪府・愛知県の裁判の生活保護基準の引下げを違法とし、国にその影響を受けた当事者に対し適切な対応を求めていました。今回の青森市と八戸市に住む3人による訴訟の控訴審は、準備書面が最高裁判の前に提出されたこともあり、国側の口頭弁論では裁判の引き延ばしとともに答弁が続きました。しか



し、この日で結審し、判決は12月3日(水)になります。最高裁判決が出たあとも、国はいまだに当事者に対する謝罪さえせず、被害回復の方向性も明らかにしていません。10年以上続く裁判の中で亡くなる原告の方もおり、一刻も早い全面解決が求められています。青森の取り組みもこれから被害回復に向けた後押しをしていく事が大切です。改めて私たちの事として関心

を持ち、声をあげていきましょう。
(あおもり健康企画
総務部長／山崎英二)



9月9日(火) 14時から仙台高裁「10号法廷」にて、いのちのとりで裁判の仙台高裁控訴審が開かれました。



❤ name 田邊 一栄ちゃん
(たべ いちか)
❤ age 1歳

我が家の一歳になった娘を紹介します。田邊一栄(たべいちか)と
言います。家では『いっちゃん』と呼んでいます。2024年10月7日に
この世に誕生しました。

産まれたときは3086gだった体重も、今では9キロと大きくなりま
した。最近歩けるようになり、行動範囲が拡大。オムツ交換や着替え
が大変になりました(笑)。また、出来る事が増えて「どーじょ!」と物を渡してくれた
り、『いないないばあ』や『こちよこちよ』で大爆笑してくれる我が子が可愛くて毎日
癒されています。人見知りはほとんどせず、皆から「可愛い」と言われるのが好きで、い
ろんな人に笑顔を振りまいています。

食べ物の好き嫌いもはっきりしてきて、食事の時は大人が食べている物が食べたくてグズる事が多くなりました
(笑)。これも成長している証だと思い、大変だけど何とか頑張っています♪

これからも成長していく証だと思い、大変だけど何とか頑張っています♪
(生協さくら病院 1病棟主任/田邊愛)



私の三つ星★★★

オススメ つけ蕎麦 白神

私が今回紹介するのは、昨年末弘前市にできたそば屋
「つけ蕎麦 白神」です。国産のそば粉を白神山地の湧き水
で練り上げ、そばつゆも湧き水を使って仕込んでいると
のこと。店のこだわりがうかがえます。

店内はわりと広め
で、カウンター席や
テーブル席・掘りごた
つ席があります。子
ども連れには子ども用の
食器を用意してくれる
ので、多様な家族層で行
っても大丈夫です。



メニューは定番の天ざるに天丼・御膳や一品料理など
がありますが、中でも店が名物としているのが店名にもなっ
ている「つけ蕎麦」です。つけ汁の違いによってさらに何
種類かメニューがありますが、私のオススメは「上きざみ
鴨つけ蕎麦」です。つけ汁には鴨の細かいきざみ肉が入っ
ており、鴨の出汁と相まってすぐおいしい、すごくおいしい。
のど越しの良いそばとトウギヤザーすれば、そこは鴨
とそばが手と手を取り合うユートピア。約束の地がそこ
にあります。さらには別皿で鴨ローストも付いてくるとい



う、鴨好きのための鴨ま
みれメニューです。

味が伝わったか分か
りませんが、気になる方
は足を運んでみてくだ
さい。

(藤代健生病院 庶務課/宮腰和実)

11月 2025年11月 第57期第19回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 人事
- >> 4. 決裁・承認事項
 - (1) 授学生関係
 - (2) 県連・地協・全日本関係
 - (3) 各種委員会から
- >> 5. 協議事項
 - (1) 各法人の上期経営報告
 - (2) 青森県民医連総会開催日について
 - (3) 地域医療を守れ 署名到達と各法人の取り組み
 - (4) 全日本・地協関係(会議、研修等)について
 - (5) 報酬10%以上の引き上げを求める団体署名への協力のお願い
- >> 6. 医師・医学生関連
- >> 7. 報告事項
 - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - (2) 地協
 - (3) 県連・共闘関係
- >> 8. 各法人・事業所から
 - (1) 生協さくら病院への出向支援看護師 交替のお願い
- >> 9. その他
 - (1) 社会福祉法人虹 20周年記念つどい